

I 事業の概要（地域の実情含む）

八幡平市は、岩手山や十和田八幡平国立公園を有し、様々な火山型や火口湖（八幡沼が代表）・火口原湖、泥火山・火山地獄などの火山活動が見られる。山腹から山頂付近まで様々な温泉が多数あり、スキー客とともに観光客は絶え間ない。また、本学区の平館地区は、平成25年9月の台風18号による豪雨などにより、大きな被害が発生している。

そこで、地域で想定される火山噴火や豪雨による浸水や土砂災害などについて、学区で起こりうる危険箇所を知り、どのように避難することが安全であるかを学ばせたいと考え、本事業を展開した。

II 取組の概要

1 復興教育年間計画の作成と活用（小中連携）

校区にある西根第一中学校の年間計画に合わせ、9年間を見通して3つの教育的価値【いきる】【かかわる】【そなえる】を育てることをねらいとし、次の3点に留意しながら年間計画を作成した。

□ 『いわての復興教育副読本』の活用と具体的9項目の位置付け

・ 本校の復興教育計画をもとに学校重点目標、具体的9項目と関連する教科を位置づけ、さらに教科横断的な視点から関連する教科領域も計画に位置付けた。

□ 復興教育月間の設定

・ 中学校の復興教育月間と時期を合わせての取組。

□ 体験学習の位置付け

・ 被災地訪問
・ 防災講演会
・ DIG学習
・ HUG学習体験 等

2 被災地訪問

被災地である田老地区を、5年生が訪問した。ガイドの説明を聞きながら見学したり、宮古市立崎山小学校の5年生と交流したりした。

この被災地訪問を通して、実際に被災地を見た

八幡平市の未来を支える人になろう							
		1年生			2年生		
		身の周りのようすを知ろう			学校のまわりのようすを知ろう		
月	防災関連行事等	いきる	かかわる	そなえる	いきる	かかわる	そなえる
4	・年間指導計画、学校安全計画の整備 ・通学路の安全確認、1年生下校指導 ・メール配信整備、家庭訪問 ・避難経路の確認、交通安全教室 ・鉄道安全教室			学活：安全な登下校	国語：春がいつばい		学活：安全な下校
5		生活：たねをまこう 学活：運動会を成功させよう		学活：地震のしくみとひがい	学活：運動会を成功させよう	生活：まちたんけん他	学活：安全な避難 学活：その時どきする
6	・水泳安全指導 ・救急救命法講習（PTA） ・防災講演会	生活：生き残ったイトヨ			生活：苗を植えよう・生き物大好き		道徳：防波堤を見て学ぶ 学活：急な大雨
復興教育月間 ①							
7	・集団下校 ・防犯教室 ・夏休みのくらし ・復興教育研修（教職員） ・広報等により地域に知らせる。	生活：世話をしよう・元気に育て			道徳：はるかのひまわりロード		算数：水のかさのたんい
8	・教職員研修		道徳：ありがとうおまわりさん	学活：みんなで防災力を高めよう		生活：かえってきたいらっしやいませ	
9	・避難訓練（地震） ・広報等により地域に知らせる。			学活：ショート訓練をやってみよう	国語：動物園の獣医	道徳：思いやりの心 友達交流	
復興教育月間 ②							

り、明るく元気に活動している同世代の児童との
 触れ合いを通したりして、命を大切にする気持ち
 や郷土岩手県を愛する気持ち、防災に対する意識
 が高まった。



<児童の感想>

実際に行って話を聞くと、震災津波は大変な
 ことだったことがわかりました。復興がなかなか
 進んでいないこともわかりました。交流した
 学校の人たちと、今後も交流を続けたいと思
 いました。

3 防災講演会「災害から命を守る」

5・6年生児童と保護者を対象に、岩手県総合
 防災室地域防災サポーター1名を迎えて講演会を
 実施した。

災害に備えて身に付けておくべきこと等、防災
 意識の向上を図ることを目的とした。



<児童の感想>

災害の種類やどう備えればよいかを知ること
 ができました。自分が考えもしない所が、実
 は危険だということも分りました。

4 DIG学習（災害図上訓練）

5・6年生児童を対象に、岩手県総合防災室地
 域防災サポーター1名を迎えて実施した。

災害に備えて、身に付けておくべきことを再度
 学習し、避難時に気を付けることを地図上で学習
 した。



<児童の感想>

- ① 今日学んだことは、いつも登下校の時に何
 気なく通る道も災害が起きれば、いつもと違
 う景色になるということです。用水路が氾濫
 したり、物が倒れたりすることもあります。
 危険な所がどこかを知ることができました。
- ② 災害が起きた時、どこに逃げればよいか、
 どのように対処すればよいかなどを学ぶこ
 とができました。家に帰ったら、お家の人に、
 今日どんなことを学んできたか、どうしたら
 よいかを話したいと思いました。

5 HUG 学習体験（小中連携）

西根第一中学校で行われた避難所運営実習に、
 避難者として参加し、避難者としての体験と中学
 生の運営者としての動きを参観した。



<児童の感想>

実際に避難してみると、座る場所が狭かった
 り、自由に動けなかったりして大変でした。中
 学生が、いろいろなことで動いていたので、す
 ごいと思いました。自分も中学生になったら、
 頑張りたいです。そして、災害が起きて避難し
 た時は、自分も何か役立つことをしたいと思
 いました。

6 先進校視察

宮城県石巻市立北村小学校を訪問し、児童に
 のような力を付け、どのような計画を立てている



のかを視察した。

本校から校長と担当者の2名が視察した。

総合的な学習の時間「北村地区安全調査隊」の防災マップ発表会を参観した。地域の方と一緒に、割り当ての地区の防災施設や危険箇所を調査し、作製した防災マップをポスターセッション形式で発表していた。発表の中で、一緒に調査した方からさらに詳しく説明があったり、感想等の意見を頂いたりしていた。

「防災マップ発表会」を通して、郷土の自然と暮らしを知るという視点がとても参考になった。普段から地域とのつながりを大切にし、地域人材を活用しながら防災教育を展開していることが重要だと改めて実感することができた。

市教委と学校が一体となって防災に取り組む組織「地域防災連絡会」を要とし、地区毎に石巻市の防災訓練へ向けた取り組む体制が整備されていた。また、社団法人「みらいサポート石巻」からの人的サポートや学区の大判地図の提供等、他機関との連携により活動が支えられていた。

7 地域への復興教育に関する情報の発信

地域・保護者との連携を広めるため、今年度4回、校報に学校での取組の様子を掲載し、地域及び保護者に配布した。

いわての復興教育スクール「防災マップづくり」(3・4年生)

今年度、平館小学校では、「東日本大震災の教訓を踏まえ、地域で想定される様々な自然災害に際し、自他を守り抜くために行動できる児童を育成すること」を目標に、いわての復興教育スクール事業に取り組んでいます。

その活動の一つとして、6月13日(水)3、4年生が「防災マップづくり」の学習を行いました。講師の先生は、盛岡地方気象台の防災気象官三上康司先生他3名の先生でした。

3、4年生の子どもたちは、先生のお話を真剣に聞き、自分が住む地区の地図と向き合い、地域で起きた洪水や浸水などの災害、これから起きるかもしれない地震や火山災害等に備え、通学路の危険箇所を探し、印をつけました。また、安全な避難場所がどこなのか、先生方のアドバイスを受けながら探することができました。

子どもたちが作成した防災マップは、2階プレイルーム2に掲示しております。

お立ち寄りの際に、どうぞご覧ください。



III 取組の成果と課題

1 成果

(1) 指導について

教科横断的な視点から、復興教育との関連を図り、「いわての復興教育」3つの教育的価値から9項目に重点を置いた。校内研究会を通して関連する教科領域を明らかにすることができた。

また、『いわての復興教育読本』について、指導学年や指導時期について改善が図られた。具体の9項目については、指導案の本時展開に盛り込むことにより、復興教育の視点との関連を意識して指導することができた。

(2) 児童の意識について

本校児童の災害への意識を調査するため、4月と11月に「大きな災害に遭う可能性があると思うか」という意識調査を実施した。

4月の調査では、ほとんどの児童が「災害がこない」「考えたことがない」と回答していた。しかし、11月の調査では、87%の児童が「災害に遭う可能性がある」と回答した。

復興教育月間において、重点的に各教科領域との関連を意識した指導を展開したことや、被災地訪問、防災講演会、DIG実習やHUG実習等の体験活動により、取組前と比較すると、児童は、災害に対して、より自分事として捉えることができるようになった。西日本での台風21号の被害や北海道での胆振地方の地震被害についても、被災地の方々に寄り添う考えをもつ児童の姿が多く見られるようになった。

(3) 小中連携について

西根第一中学校で行われた避難所運営実習に参加することで、中学校区の各校の復興教育担当者が情報交流する場を設けることができた。計6回避難所運営実習への参加の仕方や各校の復興教育の取組について情報交流を行った。来年度以降も継続することで更に連携を図りたい。

2 課題

(1) 復興教育年間計画の見直し

今年度の実践をもとに、今後も継続して見直しを図り、より効果的な年間計画にしていく。そのために、教科や領域と防災教育の関連に関する研修の充実を図る。

(2) 家庭や地域との連携について

DIGやHUG実習、避難訓練等において、家庭や地域の協力を得ながら、一緒に取り組む方法を今後も模索していく。